



再生可能エネルギーの導入に向けて、エルサルバドルの政府関係者と実施機関の能力強化の方法について話し合う井上さん(左)

人々の生活を変える インフラを整備したい

中米の真ん中に位置するエルサルバドルは、日本の対中米協力の拠点。JICAエルサルバドル事務所の井上侑一郎さんは、中米6カ国での円借款事業を通じて、道路や下水処理場の建設など、人々の生活を支えるインフラ整備に奔走している。

インフラ整備の インパクトを知る

小さい頃から海外への憧れが強く、高校2年生の時、メキシコ南部の町にある高校に1年間留学しました。そこで目にしたのは町中にあふれる失業者や、貧しくて学校を辞めてしまう同級生たち。これほどの貧困から抜け出す術などあるのだろうか。当時はそう悲観していません。

しかし4年後、その町を再び訪れると、状況は一変していました。新しい家があちこちに建ち、住民たちは仕事を持ち、生き生きと働いている。なぜこれほど変わったのか聞いてみると、主要都市へとつながる道路ができて市場にアクセスしやすくなったとのこと。道路一本で、これほどの変化が起こるなんて思ってもみませんでした。貧困削減のカギは経済基盤の強化だと確信し、開発途上国のインフラ整備に貢献する円借款事業に携わりたいと、国際協力銀行(JBIC)に就職しました。

円借款の実施に向け 黒字に徹する

2008年10月、JBICの円借款部門とJICAが統合することになり、その3カ月前、財務面の統合に向けた準備作業を担当するJICAの資金・管理部で仕事をすることになりました。



JICAエルサルバドル事務所

井上 侑一郎
INOUE Yuichiro

大学卒業後、2006年に国際協力銀行(JBIC)に就職。JICA資金・管理部を経て、2011年11月から現職。

途上国に円借款を供与するには、日本政府からお金を借りたり、債券を発行したりして、その資金を調達する必要があります。しかしいくらお金が入り、出ていくのかきちんと管理しないと、資金が余ったり、足りなくなったりしてしまいます。JICAとJBICという、2つの異なる会計基準を持つ組織が統合することになったため、このお金の流れをもう一度把握し直す必要があったのです。

まずはJICAの各部署を回り、組織全体のお金の流れを徹底的に調べました。しかし調査項目が多いためなかなか進まず、徹夜の毎日でした。「資金管理という、組織にとって最も大事なところを君は守っているんだよ」と上司に言われ、私がここで踏ん張らないとお金の流れが止まってしまふと必死に働き、新たな資金管理体制をつくっていきましました。

インフラ整備の 最前線に立つ

2011年にエルサルバドル事務所に配属になってからは、中米6カ国における円借款事業を担当しています。現地の政府や企業の関係者、学者などと協力して必要なニーズを洗い出し、新たな事業について検討しています。

また、現在実施中のパナマ首都圏の下水処理施設の建設にも関わっています。実は



パナマ市東部の下水管の建設現場。事業が予定通り進んでいるか、視察する井上さん

2007年、私は東京でこの事業の立ち上げを担当していました。出張で現地を訪れると、下水は川に垂れ流しで、街には汚水のおいが広がっていました。何とか状況を変えたいと政府高官と話をしていたのですが、激しく意見が対立して「もう二度とパナマに来るな」と怒鳴られたこともありました。それでも粘り強く対話を重ねた結果、2013年夏、予定通り全ての施設が完工しました。それを受けて政府高官から、「あなたと働いたことを誇りに思う」と言われた時はやりがいを感じました。途上国の発展のために奔走する現地の人たちと接していると、力が湧いてきます。これからも彼らと力を合わせて、より良い社会を目指していきます。